



患者さんのご紹介はぜひFAX紹介をご利用ください

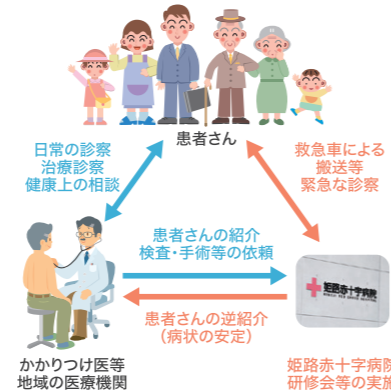
当院では、地域の先生方と緊密な連携と役割分担を図りつつ、より良い医療を提供していくことで、地域医療の充実を目指しています。

紹介状をお持ちでない患者さんが当院を受診された際は、まず、かかりつけ医を受診していただくようお願いしていますので先生方のご支援を賜りますようお願いいたします。

また、紹介状をお持ちでも直接来院された場合、来院された日に受診出来なかったり、待ち時間が長くなったりとご迷惑をおかけすることがありますので、是非FAX紹介をご利用くださいますようお願い申し上げます。

【患者さんにとってのメリットは?】

- 症状に応じた専門医の診察を受けることができます
- 受診日時が決定するので、スケジュール調整ができます
- 初診申込書の記載が必要ないので手続きがスムーズにできます
- 初診時選定療養費5,000円(税別)が徴収されません
- 外来での待ち時間が最小限となります



FAX紹介受付時間 平日 8時30分～19時まで 土曜日 8時30分～12時まで

診察日 原則 1週間以内 *但し、検査・診療科・診療内容により及び希望日が集中する場合がございますのでご了承ください。

問い合わせ先 地域医療連携課
TEL:079(299)5514(直通) FAX:079(299)5519(直通)

がん相談支援センター

当院では、がんでお悩みの患者さんやご家族の方が安心してご相談いただける窓口として「がん相談支援センター」を設置しております。当院の患者さんやご家族はもちろん、地域の方、当院かかりつけでない方もご利用いただけます。

相談予約 あらかじめ電話でのご予約をお願いいたします
受付時間 平日 8:30～17:00
病院代表 : 079-294-2251
直通 : 079-299-0037
相談時間 1回60分程度

また、当院2Fエントランスホールの相談支援センターブースでも相談・予約を承っております。

【姫路赤十字病院の理念と基本方針】

理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

1. 患者中心の医療…患者の人権と意思を尊重し、患者とともにチーム医療を実践します。
2. 災害医療の充実…国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
3. 地域との連携…高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおり、地域完結型医療に貢献します。
4. 優れた医療人の育成…教育・研修・研究を推進し、人間性豊かな医療人を育て、医療水準の向上に努めます。
5. 魅力ある職場づくり…働きやすい環境、誇りある職場を創ります。
6. 健全経営…健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

【患者さんの権利と責務】

患者さんの権利を尊重します。

1. 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. 十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
5. 自己の診療情報の開示を求めることができます。
6. 個人情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

患者さんご家族の義務

1. 健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
3. 医療者とともに安全確認に参加し、治療に協力してください。
4. 病院のルールに従い、他の患者さんへ迷惑にならないように努める義務があります。
5. 医療費の支払い請求を受けた時は、速やかに対応してください。

姫路赤十字病院だより

Vol.27

発行日 令和2年1月

発行 姫路赤十字病院
発行責任者 院長 佐藤 四三
編集責任者 広報委員長 高木 慎二郎

〒670-8540 姫路市下手野1-12-1
電話 079(294)2251(代)
URL: <http://himeji-jrc.or.jp/>

姫路赤十字病院だより

Japanese Red Cross Society Himeji Hospital NEWSLETTER

Vol. 27
January
2020.1

contents

2020年新春を迎えて

最新の手術用顕微鏡システム ORBEYE (オリンパス社) が導入

ISO 15189 認定について

診療科の紹介 呼吸器外科

診療科の紹介 臨床検査科

国際派遣出発

オーラルマネジメントチームの紹介

災害対応力を高める!各種防災訓練に救護班を派遣

慢性呼吸器疾患看護認定看護師紹介

スキルアップ研修会

10月「がんについてもっと知ろう!市民講座」報告と次回2月の開催案内

看護部研修開催予定一覧

FAX 紹介について

がん相談支援センター





2020年新春を迎えて



新年あけましておめでとうございます。2020年（令和2年）の干支は庚子（かのえ・ね）です。組み合わせで見た場合『庚子』は「相生」であり、相性の語源とも言われ大変良い組み合わせと言われています。干支は植物に例えられることが多く、「子」はまだ種で、その中で芽が出始めようとしている時期で、未来への大いなる可能性を感じさせます。2020年の「庚」は成長が終わった状態を表します。今年の干支には、「始まり」と「終わり」があって、さらに「増える」となり、植物で例えますので出発というよりも継続から更新を意味します。今年は東京オリンピックが開催される年でもあります。干支にこだわるわけではありませんが、継続発展に向けて大きなステップアップが望める良い年になることを期待します。

日本は世界の先端を切って少子・超高齢社会に突入しています。人口減少、疾病構造の変化、多死社会、さらには社会保障費の増加等々、医療を取り巻く環境は極めて厳しく、しかも激しく変化しております。世界に例を見ない状況が次々に生じてきますが、明確な答えはないとも言えます。医療政策を踏まえた上で、国民も医療提供者も協力して世界の見本となる成果を導き出すことが求められます。

こうした環境の中、本年度は医療関係者にとって“働き方改革”そして“保険診療報酬改定”といった大きな課題が待ち受けています。昨年4月厚生労働省は社会保障審議会医療部会で、2040年の医療提供体制の構築に向けて、地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策を「三位一体」で推進していく方針を打ち出しています。それぞれの項目に対して、2025年までに着手しておくべきことも表記されています。中でも医師・医療従事者の働き方改革は地域医療へ与える影響は多大であり、医療機関のみで解決できる問題ではなく、地域住民そして行政の協力なくして解決できるものではありません。行政を中心として地域住民、各医療機関、そしてわたしたちの病院が知恵を出し合って解決策を探る必要があります。医師の働き方改革では2024年まで4年少しの猶予期間はありますが、一朝一夕でできる改革ではありませんので、体制整備にすでに取り組んでいます。次に“保険診療報酬改定”ですがどの医療機関にとっても厳しいことが予想されています。最近の傾向では、病院内そして医療機関間の連

携に対して評価しています。今後さらに病病連携・病診連携を推し進めることが地域にとって重要です。“働き方改革”“保険診療報酬改定”ともに地域医療を確保するには、お互いを理解して変化しながら連携を深化させることに鍵があると考えます。

わたしたちの病院は一昨年新治療棟の稼働により、脳血管診断治療、放射線治療、消化管内視鏡治療、ロボット手術、小児周産期部門の刷新により地域住民に質の高い医療を提供するとともに、地域がん診療拠点病院（高度型）、がんゲノム医療連携病院にも指定を受け、地域に時代に即した医療の提供にも努めております。今年度は、地域住民、患者さんとのつながりを深めるため、長年の課題であったアメニティー充実を主な目的として、患者サロン、食堂を備えた地域開放型多目的ホールの建設が始まります。これが完成すれば“連携”を住民に形として表すことが出来ると考えています。

これまでも・これからも地域あつての赤十字病院でありますので、高度急性期の役割を担うべく、救急医療、小児・周産期医療、がん診療など高齢社会を迎える地域住民に必要な機能を整え、心のかような安全で良質な医療を実践します。そのためにも医師会関係の方々との緊密な連携を図り、紹介患者さんを積極的に受け入れ、逆紹介もさせて頂く方針で地域医療に貢献いたします。先生方から忌憚なきご意見・ご指導を賜れば幸いです。本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

院長 佐藤 四三



手術の安全性が向上

最新の手術用顕微鏡システムORBEYE(オリンパス社)が導入

耳鼻咽喉科では中耳・咽喉頭疾患の手術において、手術用の顕微鏡を用いて微細な操作を行います。このたび当院に最新の手術用顕微鏡システムORBEYEが導入されました。2019年11月時点でORBEYEが導入されている施設は国内では10施設のみということですので、ORBEYEを簡単に紹介させていただきます。

これまでの顕微鏡は、術者が主鏡筒、助手が側視鏡を覗き込んで術野を観察し操作する形式でした(図1)。今回導入されたORBEYEは顕微鏡部分に主鏡筒や側視鏡がなく、術野が55型の大型モニターに立体映像(3D)として映し出され、そのモニターをみながら手術操作を行います(図2)。それによりまず、滅菌ドレープの装着などセットアップが容易となり、無理のない姿勢で手術を行えるになりました。また、術者と同じ視野を手術室の多職種のスタッフ全員で共有できるようになりました。そして、4K・3Dの高精細デジタル画像により微細な構造がより鮮明に描出されるようになったため、手術の安全性が向上しました。ORBEYEは主に耳鼻咽喉科と脳神経外科で用いられていますが、神経・血管の処理に関わるさまざまな領域の手術に適用されるようになると思います。



図1: 従来の顕微鏡



図2: 中耳手術の風景

耳鼻咽喉科部長
橘 智靖



臨床検査室に特化した国際規格

ISO 15189認定について

姫路赤十字病院検査技術部は、2019年11月15日付で公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)から、臨床検査国際規格ISO 15189の認定を受けたことを報告いたします。

ISOとは「国際標準化機構(International Organization for Standardization)」の略称で、国際間の取引をスムーズにするための、共通の基準の取り決めで、この機関が定めているのが、ISO規格です。そのなかでISO 15189は、臨床検査室に特化した国際規格として「品質マネジメントシステムの要求事項」と「臨床検査室が請け負う臨床検査の種類に応じた技術能力に関する要求事項」の2つから構成される、臨床検査の品質と能力を担保する規格です。

当検査室は、全国の臨床検査室で205番目に認定され、その認定の有効期間は4年です。この間に2回のサーベイランス審査が実施され、品質マネジメントシステムや検査技術の維持管理状態が常に確認されます。今

回の認定範囲は、検体検査、病理学的検査、生理学的検査及び特定健診で認定されました。

ISO 15189の認定により、①臨床検査室の役割とその信頼性の向上、②共通の組織目標、③責任の明確化、④医療安全への貢献などが国際的にも担保されることは、各施設認定や加算取得にとって更に重要になると考えられます。

検査技術部は、今後もISO 15189が求めるPDCAサイクル(Plan:計画, Do:実行, Check:評価, Action:改善)による継続的業務改善を行うことで、検査の高い品質水準を継続することにより、地域医療に貢献したいと考えています。

検査技術部
技師長 山本 繁秀





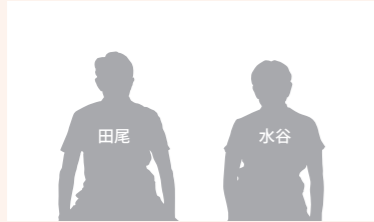
01

呼吸器外科

スタッフ紹介

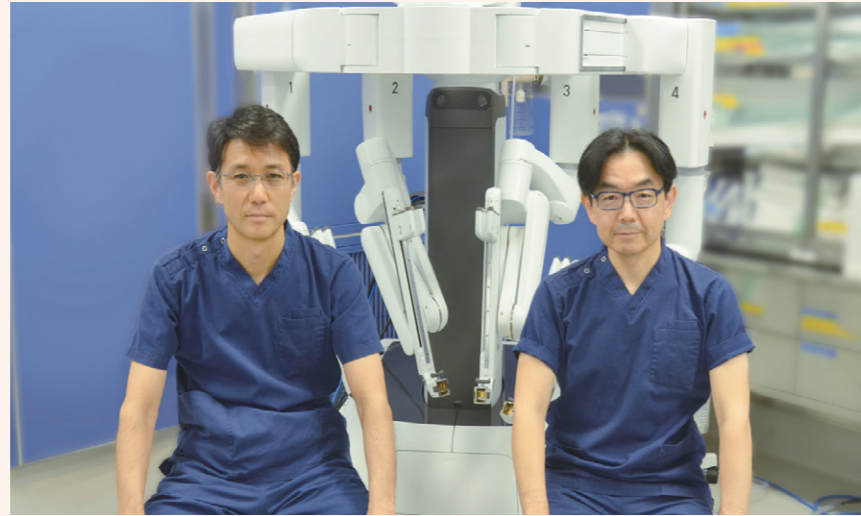
水谷 尚雄 第一呼吸器外科部長
(兼)呼吸器センター長
(平成3年卒/呼吸器外科(肺癌・気胸))

田尾 裕之 第二呼吸器外科部長
(平成9年卒/呼吸器外科、胸腔鏡手術)



2019年手術実績

原発性肺癌	96例
転移性肺癌	18例
縦隔腫瘍	5例
肺良性腫瘍	13例
自然気胸	27例
膿胸	7例
その他	21例
合計	187例



当科の診療方針

2016年4月に開設した呼吸器外科は「呼吸器センター」の外科部門です。常勤スタッフは内科3名、外科2名ですが、少数の良さを活かした密な連携で多くの呼吸器疾患の治療に携わっています。お陰様で院内のスタッフと地域の皆様の応援で、現スタッフで2年目の2019年は手術症例数が180例を超え、飛躍の1年となりました。

呼吸器外科にとって主な診療は肺癌の外科療法ですが、昨年は中播磨・西播磨で初めてのダヴィンチを使ったロボット支援胸腔鏡手術を開始し、ロボット手術の優れた点を実感しながら順調に症例を重ねています。ダヴィンチの術者は“呼吸器外科専門医”であることが条件となっていますが、当院は2名とも専門医です。これによりもはや標準的治療となった完全鏡視下胸腔鏡手術とともに、最先端の手術療法を実施できる地域のがん拠点病院の役割を担っております。

2019年は気胸や膿胸といった呼吸器疾患の準緊急症例も増えました。これらに対しても呼吸器内科とセンターとして迅速に対応することをお約束します。

当科の手術は根治性と低侵襲性の融合を目指し、気胸の手術からロボット手術まで様々な工夫と改良を重ねています(当院当科のホームページも是非ご参考ください)。これからも診療にご協力をお願いします。

地域医療機関の先生方へ

手術症例の増加に伴い、初診から手術実施までの期間が長くなる可能性があります。ご迷惑をお掛けします。「肺癌かな?」と気になる症例がございましたら「呼吸器センター」宛にご紹介いただくと、最も早い予約をお取りできると思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第一呼吸器外科部長(兼)呼吸器センター長 水谷 尚雄



診療内容

- ・肺癌に対する外科療法(ロボット支援胸腔鏡手術、完全鏡視下胸腔鏡手術)
- ・気胸の外科療法(単一肋間2孔式手術)
- ・縦隔腫瘍の外科療法(剣状突起下アプローチ単孔式手術)など



図1:ロボット支援胸腔鏡手術



図2:完全鏡視下胸腔鏡手術



02

臨床検査科

スタッフ紹介

和仁 洋治 臨床検査科部長
(兼) 検査技術部長
(平成7年卒/外科病理学)

2018年度診療実績

骨髄穿刺(生検)新規診断症例

急性白血病	40例
慢性白血病	22例
悪性リンパ腫	14例
多発性骨髄腫	25例
癌腫症	3例



当科の診療方針

臨床検査科は病理診断科とともに検査部門の一診療科です。主に当科で血液病診断を担当しています。骨髄穿刺塗抹標本や生検組織標本に加え、フローサイトメトリー、染色体分析の結果を検査専従医師が総合的に判断し、血液疾患の診断を行います。また、悪性リンパ腫については病理診断科スタッフとともにカンファレンスを行い、複数の医師で病理組織型の確認をしています。また、一般・生化学検査、微生物学検査等の検体検査精度管理にも関与し、検査レベル維持・向上を目指しています。こうした取り組みは、昨年11月の検査部門ISO15189認証につながりました。さらに、昨年からは保険診療として始まったがんゲノムパネル検査では、解析前の腫瘍組織の評価を担当しています。解析後は、岡山大学主催のエキスパートパネルへ参加し、解析結果の解釈と治療可能な薬剤についての知見を得ています。

地域医療機関の先生方へ

当科は外来を設けておりません。血液・腫瘍内科をはじめ、外来のある一般臨床科をご紹介下さい。血液疾患に限りませんが、貴施設での骨髄標本、病理組織標本、細胞診標本などがあれば、ご紹介時に併せて送付ください。

臨床検査科・病理診断科の医師がそれらの標本を再度鏡検し、当院の臨床医に診断レポートを返却しています。また、がんゲノムパネル検査ご希望の際にはがん組織のパラフィンブロック(FFPE)をご準備頂いております。貴施設、当院にがん組織がない場合には予めお取り寄せ下さい(詳細は当院HPをご覧ください)。

臨床検査科部長(兼)検査技術部長 和仁 洋治



がんゲノムパネル検査に使用される病理組織検体について

「がんゲノムパネル検査」はがん細胞の遺伝子を網羅的に解析し、有効な治療薬を探そうという検査です。がん細胞のDNAを取り出し、その塩基配列を機械で読み取り、異常な遺伝子を調べます。

血液も用いられますが、現在主として使用されているのが、病理診断標本を作製する組織(FFPE)です。ホルマリンで固定され、パラフィン(ロウ)で固められています(図1)。これを薄く(10 μ m程度の厚さ)切ってスライドガラスに貼り付けた切片(図2)からDNAが回収され、次世代シーケンサーという機械にかけて解析されます。DNAの抽出に際して、がん細胞の評価、腫瘍割合の算定などを事前に行っています(図3)。解析されたデータは、有意な遺伝子変異であるか検証され、有効な薬剤が選択されていきます。

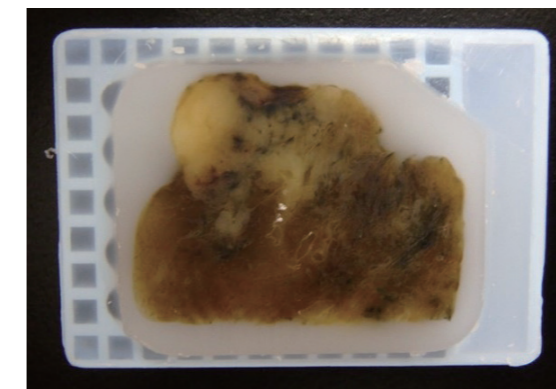


図1: がんゲノムパネル検査に必要なFFPE(見本)



図2: FFPEを薄切後、スライドガラスに貼り付けられた切片
ここからDNAが抽出される

施設名: 姫路赤十字病院 症例番号: OKB-XXXX 遺伝子パネル検査(いずれか選択): Foundation one

【患者】〇〇歳 ▲性

【がん遺伝子パネル検査に使用した組織について】採取年月日20YY/MM/DD、採取部位: 直腸、原発巣、手術
【腫瘍割合】50%(有核細胞割合)

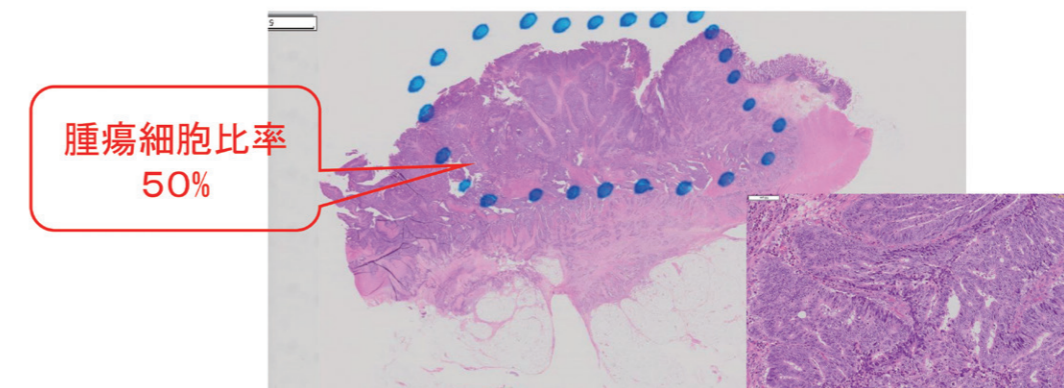


図3: エキスパートパネル提出の病理資料(見本) DNA解析のために重要な、組織含有腫瘍細胞比率



🔍 苦しんでいる人を救いたい ZOOM UP 国際派遣出発

パレスチナは、東をヨルダンに接する「ヨルダン川西岸地区」と、西を地中海、南をエジプトに接する「ガザ地区」に分かれています。1993年に交わされたオスロ合意に基づき、両地区は「パレスチナ自治区」とされ、「パレスチナ自治政府」として存在してきました。

2000年ごろから、イスラエルは、ガザの封鎖を強化し、2008年には食料や燃料など生存に必要な物資も最低限しか搬入されなくなり、人の出入りも制限され、現在ガザにいるパレスチナ人がガザの外に出ることは非常に難しくなっています。このため、パレスチナ人はガザのことを自ら、「巨大な牢獄」や、「天井のない牢屋」と呼んでいます。

人と物の出入りが制限されていることなどによって、ガザには、燃料の不足による長時間の停電／安全な水の確保が困難／大気汚染／高い失業率などの問題があり、医療面でも、最新医療知識・技術の習得がしにくい／医薬品・医療資機材の不足・限定化／治療困難患者をガザ外に紹介搬送が困難／常に感じるイスラエルの圧力と、外に出られないという精神的苦痛などの問題があります。

このような状況で、1948年から約70年間も難民として暮らしているパレスチナ難民には、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) や赤十字を含む人道支援団体がサポートし続けてきました。

今回、私が参加するのは、すでに昨年4月からレバノンで開始している「日本赤十字社」と「パレスチナ赤新月社」の共同事業である「パレスチナ赤新月社医療支援事業」で

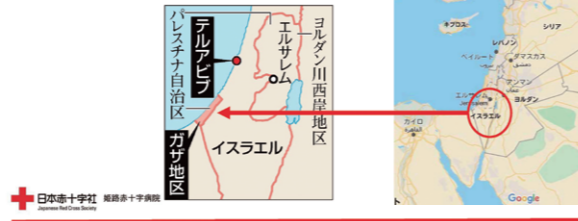
す。レバノンの病院と並行してガザでもパレスチナ赤新月社の Al Quds 病院 (120床) の支援を開始するに当たり、2017年4月に事前調査に行った知見を踏まえて、長らく待っていた現地の病院職員たちとともに、医療・看護の質の向上を目指して歩んでいきたいと思っています。

医療社会事業副部長 高原 美貴

高原副部長海外派遣

派遣先：パレスチナ暫定自治区 (ガザ地区)
派遣期間：11/29 (金) ~ 3/14 (土) ※予定
派遣内容：パレスチナ赤新月社 医療支援事業

日本赤十字社では、2018年4月からパレスチナ赤新月社の要請に基づき、レバノン国内にあるパレスチナ赤新月社病院の医療サービスの向上を目指して、日赤の医師・看護師らによる医療技術支援を行っています。



事業名：パレスチナ赤新月社医療支援事業
派遣先：パレスチナ暫定自治区 (ガザ地区)
併任・派遣・実働期間
併任期間：令和元年11月29日(金) ~ 令和2年3月25日(水)
派遣期間：令和元年11月29日(金) ~ 令和2年3月14日(土)
実働期間：令和元年12月1日(日) ~ 令和2年3月12日(木)

🔍 医療チームの紹介 ZOOM UP オーラルマネジメントチーム

オーラルマネジメントチームは、口腔環境を維持、改善し、種々の感染症を予防し、また、口腔粘膜障害の軽減を図ることで、原疾患の治療を安全に行えるよう取り組んでいます。各病棟のリンクナースを中心に歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士など多職種からなるチームです。口腔環境が不良な患者さんをピックアップし、ケア方法の指導、助言を行っています。

口腔には700種類以上の細菌が1g当たり 10^{8-9} 個常在しています。適切な口腔管理を行うことで、口腔細菌数を減らすことができ、原病治療における治療の質を大きく向上させます。例えば、適切な口腔ケアは誤嚥性肺炎による死亡率を低下させることや、がん化学療法などに伴う口腔粘膜障害を軽減させることが分かっています。また、外科的治療においても、手術前に口腔管理を行うことで術後創感染の減少、入院期間の短縮に寄与する

ことが明らかになっています。

当院では2018年度からチームの活動を増やし、平日毎日の病棟回診と月1回のカンファレンスを行っています。口腔環境の安定を通して、患者さんが安全に治療を受けられるよう、今後も活動を続けてまいります。

歯科口腔外科副部長 高木 雄基
歯科衛生係長 谷澤 由紀子



📰 災害に備えて NEWS 災害対応力を高める!各種防災訓練に救護班を派遣

姫路赤十字病院は、大規模災害時に対応出来る様に国から「災害拠点病院」に指定されており、災害医療チーム (DMAT 隊) 4班と赤十字事業である災害時救護対応として、赤十字救護班8班を常設し、自然災害、交通災害、局地災害など、あらゆる場面で対応出来る要員育成を行っており、率先して地域防災訓練に参加しています。

今年度は、11月に多くの訓練が開催されましたが、全てに救護班を派遣協力しました。

- 11月5日(火)「姫路駅周辺・都市型災害対応訓練」
会場：JR 姫路駅北側広場
- 11月7日(木) 兵庫県石油コンビナート等総合防災訓練
会場：神戸製鋼所 加古川製鉄所
- 11月10日(日) 令和元年度 姫路市総合防災訓練/国民保護訓練
会場：エコパークあばし南側敷地
- 11月16日(土) 災害拠点病院訓練
会場：神戸赤十字病院・兵庫県災害医療センター
- 11月30日(土) 近畿地区DMATブロック訓練
会場：滋賀県東近江市内

社会課長 大西 勝彦



JR 姫路駅前訓練の様子

🔍 よりよい呼吸ケアについて ZOOM UP 慢性呼吸器疾患看護認定看護師紹介

初めまして。慢性呼吸器疾患看護認定看護師の齊藤千晶と申します。2014年に慢性呼吸器疾患看護認定看護師を取得しました。

私は慢性呼吸器疾患患者さんに対する看護分野において、実践・指導・相談の役割を担っています。

具体的には、COPDや喘息など慢性呼吸器疾患を抱える患者さん・家族に対して、疾患を抱えながらその人らしく生活していけるよう援助していきます。急性増悪期・安定期・終末期それぞれの場面に対応しながら、患者さんにとってその時々に必要なケアを考え実施していきます。又、肺気腫の原因のひとつに喫煙があり、禁煙のサポートも行っています。

看護師に対する指導・相談も行いますので、呼吸ケアに関することでしたら、いつでもご相談下さい。

よりよい呼吸ケアについて皆様と一緒に考え、慢性呼吸器疾患患者さんに対して地域包括ケアを実施していけたらと考えています。これからよろしくお願ひします。

4階東病棟 看護係長 齊藤 千晶





医療従事者を対象に

スキルアップ研修会

11月9日に二人の講師をお迎えし、今年度第3回目になる地域医療従事者スキルアップ研修を開催しました。一人目は姫路市地方創生推進室 室長 福田宏二郎氏より「人口減少社会における姫路市の今」というタイトルでの講演でした。姫路市の人口の増減や人口減少が与える影響、姫路市地方創生戦略の主な事業についてなど盛りだくさんの内容でした。地方創生で問題なのは人口が減ることではなく、住民がその地で生き生きして暮らせる町を作りそれを支えることが地方創生であると話されていました。

そして二人目は特定医療法人 恵風会 高岡病院 精神科 清水勇雄医師から「精神的に『生きづらさ』を抱えた方々の家族支援～発達特性・パーソナリティ特性への理解を通して～」というタイトルでの講演でした。生づらさの背景には、ASD、ADHD、知的特性、パーソナリティ特性

があるということでした。私たちはかかわりにくさを感じるがあると思いますが、本人がやりたくてやっている行動ではなく、「特性」からくるもので、病気ではないということを理解して、支援しつなげていくことが重要であると学びました。とても濃厚な時間となり、参加者からは大変勉強になったとの感想が寄せられました。

総合相談支援課長 内波 久美子



がんについての普及啓発を

10月「がんについてもっと知ろう!市民講座」報告と次回2月の開催案内

令和元年10月19日(土)に「がんについてもっと知ろう!市民講座」を開催しました。がんについての普及啓発を目的に、今回で45回目を迎える市民講座です。

今回は、地域住民がより参加しやすくなるよう会場を姫路駅近くの「じばさんびる」へ移動し、開催日も土曜日に変更しました。「肺がん」をテーマに当院の3人の医師が講師を務めました。

呼吸器外科部長兼呼吸器センター長水谷尚雄医師による「肺がんの外科治療～内視鏡手術とロボット～」、第2放射線科部長河原道子医師による「肺がんの放射線治療～基本から最新の治療まで～」、呼吸器内科部長兼呼吸器副センター長岸野大蔵医師による「肺がんの内科治療～最新の薬物療法を中心に～」と、肺がんの3大治療(外科手術・放射線治療・薬物療法)が系統立てて理解できるような講演となりました。

当日の天気は雨だったにもかかわらず124名の方が足を運んでくださいました。

参加者から「手術の動画もあり、イメージしやすかった。」「説明も丁寧で、イラストや実際のCT画像などもありわかりやすかった。」という声をたくさん頂いています。

次回は2月2日(日)14時～当院の内視鏡センターの医師が「最近増えてきた膵がんの診断と治療」「早期大腸がんの診断と内視鏡的治療」というテーマでお話します。

10月と同様にじばさんビルで開催します。

地域の皆様へ「がん」の予防・治療に関する啓発や最新の医療情報の提供ができるように開催している市民講座です。患者さんやご家族へ案内していただけると幸いです。

がん診療連携課長 井上 豊子



研修開催情報

令和元年度 姫路赤十字病院 看護部研修開催予定一覧

当院では、レベル別研修に基づいて研修プログラムを作成しています。院内の看護師職員のみならず、院外の看護師の方もぜひご参加ください。

※日時は変更する可能性があります。研修場所は問い合わせ時にご確認ください。

▶レベルI研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
3/13 13:30~15:30	心に残った看護場面 「事例をナラティブに書いて語ろう」	ナラティブ事例の発表・共有	看護係長	レベルI

▶レベルII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/5 13:30~14:30	後輩育成	後輩育成/リフレクション	教育担当師長	レベルII

▶レベルIII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/24 13:30~14:30	実地指導者研修	新人看護職員の理解/実地指導者の役割の理解	看護師長	レベルIII

▶看護補助者研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/20 13:30~14:30	守秘義務・個人情報と倫理	個人情報保護に基づく守秘義務・倫理・ハラスメントについて	看護副部長	看護補助者

▶専門・認定看護師研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/10	NCPRフォローアップ	事例を用いたNCPRの実践トレーニング	新生児集中ケア認定看護師	全体
2/7	NCPRアルゴリズム	NCPRのアルゴリズムの理解を深める	新生児集中ケア認定看護師	全体
2/7.21.3/6	がん看護研修:アドバンスコース	事例検討会	がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師	全体



レベルI・III合同研修
「看護技術シミュレーション」



レベルII
「急変症状のアセスメント」

看護師研修、専門・認定看護師研修について 詳しくは http://himeji.jrc.or.jp/kangobu/kyouiku_program.html をご覧ください。

問い合わせ先 姫路赤十字病院 看護部 TEL 079-294-2251(内線3001)/FAX 079-296-4050